

文部科学省
IB教育推進コンソーシアム



STUDENT TESTIMONIAL

福田 美桜さん（神奈川県立横浜国際高等学校 2022年3月卒）

神奈川県立横浜国際高等学校を2022年3月に卒業後、イギリスのUniversity of Sussexへ進学し、International Relations and Development BAを修了。現在はカンボジアに移住し、Wonderlab (Cambodia) Co., Ltd. が運営するThink!Think!の学習教室にてメイン講師を担当。

IBで開けた私の世界 ― 今度は私が子どもたちの未来を輝かせる

IBを通して身についた力

異なる解釈や視点、その理由や根拠などを問い続けるIBの探究型学習を通して、批判的思考、創造的思考、論理的思考などを高めることができました。また、自分とは異なる人の意見や視点を尊重しながら、共に着地点を見つけていくディスカッションベースの授業を通して、コミュニケーション能力や問題解決能力なども磨かれたと感じています。

そして、自分にとって特に重要だと感じたのは、振り返りの力が高まったことです。単元やエッセイなどが終了するたびに、IBではいつも自分を見つめ直す振り返りの時間が設けられています。「自分自身」は自分にとって永遠の探究のテーマであるということを考えさせられながら、振り返りの力を伸ばすことができたのは、非常に大切な学びでした。これらの力は、IBの探究型学習だからこそ高めることができたと感じています。

IBで身につけた力は、その後どのように活かされていますか？

大学で専攻した国際関係学と開発学では、異なる立場や文化的・歴史的背景により正当性や評価が変化する「正解のない」戦争防止策や途上国支援の形などを学習しました。その中で、過去や現在進行中の事例を多角的に分析し、適切なアプローチを考える際に、IBで培った批判的思考と問題解決能力、そして正解のない問題に向き合った経験が活かされました。また、多種多様なバックグラウンドを持つ人々と議論する授業でも、IBで磨かれたコミュニケーション能力を発揮することができたと感じています。

IB修了後、大学生活だけでなく、様々な国を訪れたり、様々な人と関わったりする中で、多くの恩恵をIBプログラムから受けているように思います。そして、私にとっての一番の恩恵は、今でも学びが楽しいと思える探究の姿勢を教えてくれたことです。

TOK（知の理論）で学んだこと

TOKでは、論を展開する際に、単に具体事例を根拠として論じるのではなく、論を「一般化」してより多様な文脈で捉える大切さを学びました。これにより、様々な事例に共通する本質的な部分を見極める「ものの見方」を身につけることができたと感じています。そして、この本質を問う「ものの見方」は、大学にて貧困や戦争の本質を学ぶ際にとても役立っただけでなく、今でも自分自身の本質に向き合う姿勢につながっています。

また、TOKでは、自分の論に対する反論をあえて準備しなければならないのですが、実際に反論を準備する中で、自分の論に修正の余地があることに気付

いた経験などから、常に自分に対しても批判的な視点を持つことの大切さを学びました。それにより、普段から他者の見解を積極的に取り入れて自分の意見を見つめ直すように心がけています。

CAS（創造性・活動・奉仕）で印象に残っていること

印象に残っているのは、日本人の魚の消費量減少を背景に、自分の家庭の食卓により多くの魚料理を取り入れようと考えた「魚を捌く企画」です。毎週市場に通い、穴子や平目など、これまでに捌いたことのなかった様々な魚を捌いて調理しました。毎週魚を捌く中で、腕が上達し、継続の大切さや未経験のことに挑戦する大切さを学びました。また、我が家の魚料理のレパートリーが増えたことで、今でも食卓によく魚料理が並ぶようになるなど、一時的な取り組みでも継続的な変化につながることを実感しました。

さらに、グループ企画では、高校近くの商店街が外国人観光客に対応できるように、商店街との連携を通して英語版の商店街案内地図を作成しました。これらのCAS活動を通して、問題提起にとどまらず、行動を起こすことで身近なところから社会を変えていけることを学びました。

大学受験や進路選択で意識したこと

幼い頃から貧困問題や戦争の解決に興味があり、中学生の頃から海外の大学でそれらについて英語で学びたいと夢見ていました。IB生になったのも、海外大学への切符ともいえるDP資格を取得できることが理由の一つでした。そして、進路を本格的に考える段階で、自分が学びたいものが国際開発学と国際関係学の二つに絞られた時、それらを一緒に学ぶことができるサセックス大学のコースに惹かれ、同校への進学を決めました。

大学受験準備で工夫したのは、とにかく早めに大学や専攻を決めて、必要なIBスコアや英語スコアを明確にすることでした。行きたい大学や目標を早い段階で決めておくことで、それがモチベーションとなってIBプログラムも頑張ることができたと思います。また、早い段階で目標から逆算して学習計画を立てられたことで、比較的余裕を持って目標達成に向けて取り組むことができました。

今後のキャリアについて

大学で教育と開発について学んだ際に、貧困下の子どもに教育機会を提供する重要性を学ぶと同時に、そこで提供されている教育の質を考える重要性も学びました。また、教育がアイデンティティの形成に及ぼす影響を学んでいく中で、質の良い教育を通して未来の人材を育てていく開発アプローチに興味を持ちました。この背景には、IBでの経験が深く関わっています。IBという教育プログラムに出会い、自分の価値観が変化するなど、アイデンティティの形成に影響を受けたことで、教育の質が人に与える影響を身をもって経験しました。そのため、自分も子どもたちの未来を輝かせられる質の高い教育を提供する側になりたいと思うようになりました。

現在はカンボジアにて、子どものSTEAM教育に携わっており、今後はプノンペンにて新設されるIB小学校のPYPプログラムに教員として携わっていく予定です。

